

# 病気と動物 —アフリカ熱帯雨林狩猟採集民 Baka の民俗病因論—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 弘明 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/226">http://hdl.handle.net/10271/226</a>

## 病気と動物

— アフリカ熱帯雨林狩猟採集民 Baka の民俗病因論 —

佐藤弘明

(社会学)

### Illnesses and Animals

— Folk Etiology among the Baka, a Group of Hunter-gatherers in the African Rainforest —

Hiroaki SATO

*Sociology*

#### ABSTRACT

This paper addresses the structure of traditional medical belief and knowledge with special reference to etiology among the Baka hunter-gatherers living in the tropical rainforest from northwestern Congo to southeastern Cameroon. A group of the Baka in northwestern Congo have 89 folk illness terms. The illnesses are classified into three groups according to the type of cause. The first group consists of 8 illnesses which develop exclusively due to some specific causes such as contacts with various pathogenic substances, violation or sorcery, the second group consists of 55 illnesses which develop due to some specific causes or spontaneously, and the third group consists of 26 illnesses which can develop only spontaneously. In the Baka folk etiology, the naturalistic notion that some natural entities are responsible for the occurrence of illnesses is more predominant than the personalistic notion that some agents, such as sorcerers, evil spirits, and ghosts, cause illnesses. Among various pathogenic substances, animals are major pathogens. Forest animals, whose bodily shapes or behavior look strange or unusual to human beings, seem to provide good materials to the Baka who wish to explain and understand what causes illnesses, an abnormal state in body and mind, without warning. The Baka people think that almost all of their folk illnesses can develop spontaneously too. Their search for pathogenic substances of their illnesses seems neither for the purpose of removing it nor cutting off contacts with it, but for the purpose of seeking specific remedies.

## はじめに

北西コンゴから南東カメルーン一帯の熱帯雨林地帯に住み、ピグミーとして知られてきた狩猟採集民 Baka はおよそ 3,3000 人の人口を有し<sup>1)</sup>、アダマワ・ウバンギアン (1A6) に属する言語を話す<sup>2)</sup>。彼らの多くは、焼畑を経営し、近隣の農耕民諸族と緊密な社会・経済的関係を結びながらも、独特の文化を維持し、自然の森林資源に依存する生活を送っている<sup>3) 4)</sup>。湿潤な熱帯雨林環境は Baka の人々に豊富な有用資源を提供する一方、病気やさまざまな危険をももたらす。公式記録はないけれども、Baka の小児の死亡率は、我々の小規模な調査によると依然として高い (佐藤, 未発表資料)。彼らが高齢まで健康を保つのは難しいようにみえる。Baka の人々は病気やその治療に大きな注意を払い、毎日のようにいろいろな薬草を利用する。我々は Baka の一つの集落で症状に関する用語以外におよそ 90 の病気の名称と 400 以上の植物からなる民間薬についての情報を集めた。彼らが病気に対して実際にいかに対処しているかという問題は重要であるけれども、それは他で報告することにしよう。ここではもう一つの問題、Baka の人々は病気やその原因をどのように考えているかについて論じたい。すべてのアフリカの熱帯雨林の狩猟採集民たちは近隣農耕民と社会・経済的に相互依存関係にあるが、独特の文化を依然として保持している。医療に関する信念や知識はその一つの例である。Baka の人々が病気、その治療、その薬や原因について語るとき、彼らの話は動物や植物など森のさまざまな事物に関する言葉で満ちあふれる。一方、アフリカの農耕民たちの間では、邪術、悪意をもつ精霊、あるいは何か超自然的存在が病気や不幸の原因として人々の関心の的になる<sup>5) 6)</sup>。なぜ、このような違いがあるのか。本稿は、病因論の側面に焦点を当てながら、Baka の民俗医学の理論と信念を明らかにし、さらに、上の問題を解明する手がかりを得ることを目指す。

## 調査地と方法

我々はこの研究に関して 2 地域で現地調査を行った。一つは、北西コンゴのソアンケ地区の首都ソアンケ市の近くにあるゴマニ集落、二つめは南東カメルーン、コンゴ国境にあるンドンゴ村近くのバカ集落である (図 1)。本稿では、集落 (settlement) という用語を狩猟採集民の集落に対してのみ使用し、農耕民の集落については村 (village) という語を使っている<sup>4)</sup>。本稿で使われる資料は主に前者のゴマニ集落で 1990 年 10 月から 1991 年 1 月までの間に得られたものである。1994 年には、後者のバカ集落で補助的調査を実施した。ゴマニ集落の人口は 110 人前後であった。ゴマニ集落の住民は、狩猟採集活動のほかには自分の焼畑、農耕民の畑の手伝い、ソアンケの商店の手伝いなどでも生計を維持している。彼らは普段ソアンケ市から 2 キロメートルほどのところに定住的集落をかまえて生活し、ときおり、数日から数カ月間、狩猟、採集、漁

労のために森の奥に入っていく。近隣農耕民は Bakwele, Jem, Fan の諸族である。

1990年、ゴマニ集落住民には二つの医療資源があった。第一は、科学的医療、第二は、Bakaの民俗医療である。ソアンケ市には効果的な医療サービスを提供していたと思われる病院があったが、調査当時は、薬の欠乏で開店休業同然であった。それゆえ、ゴマニの住民は実際には自分たちの民俗医療しか利用できない状況であった。ゴマニ集落にはンガンガと呼ばれる専門的占い師はいなかった。一般に、病気や他の不幸、とくに深刻なものについてその原因を探しだし、診断をし、多様な特効薬を処方するンガンガはBakaの民俗医療体系のなかで重要な役割を果たす。しかし、たとえ、ンガンガがいなくとも、住民たちは困ることはない。彼らはたいていの病気を自分で治せるし、ンガンガに代わる人、たとえば、高齢者たちがいるからである。Bakaの大人はたいてい一般的な病気の知識をもっているし、その薬も知っている。彼らが自分で治せない深刻な病気の時、ンガンガや高齢者のもとを訪れる。ンガンガや高齢者は豊富な民俗医療の知識、とくに民間薬に関する知識をもっている。ゴマニ集落では、そのような高齢者に、二人の男と一人の女がいた。当時、我々はBakaの住民だけでなく、近隣の農耕民たちが薬を求めて彼らのもとを訪れるのをしばしば見かけた。本稿が取り上げるのはこれら的高齢者がもっている民俗医学に関する知識と信念である。民俗医学の構造を理解する有効な方法の一つはたくさんの実際のケースを観察し、分析することである。しかし、限られた調査期間中に分析できるほどの事例数を観察することは難しい。もう一つの方法は、職能者、準職能者として認められているインフォーマントからその知識や信念を系統的に引き出すことである。我々はこの方法を採用した。これは便利な方法であるけれども、リスクを背負う。すなわち、理論と実際の間のずれである。そのようなずれを排除するためにできる限り多くのケースを観察し、診断や対処行動のような実際の問題よりむしろ理念的な問題に焦点を当てつつ、我々はイン

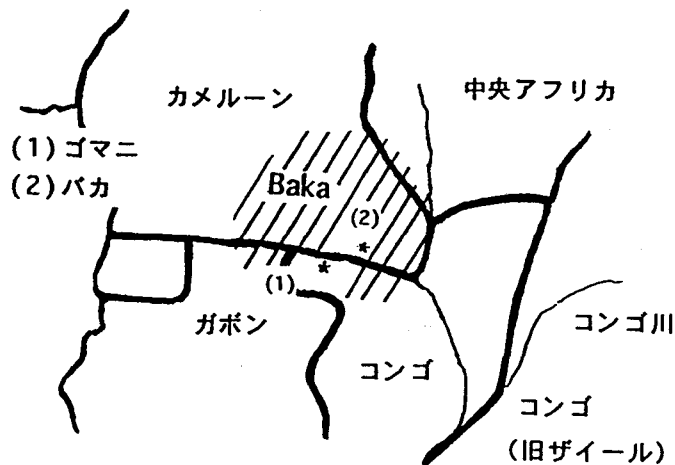


図1 Bakaの分布域と調査地

フォーマントたちから度重なるインタビューによって資料を収集した。インタビュー項目は病気の名称、それらの語源、病気に関する俗信、症状の説明、病気の原因、各病気の薬などである。インフォーマントたちは3人であった。上述の二人の50歳以上の男と、彼らに豊富な医療知識を有すると推薦された一人の中年女性である。インタビューはアフリカ中央部の現地共通語、リンガラ語で行われた。先に述べた女性の高齢者はリンガラ語が話せなかったため、インフォーマントにはできなかった。

文中のBaka語の病名はイタリック体で表記した。また、Baka語には高、中、低の三音調があるので、中調子は無符とし、高調子は揚音符 (´), 低調子は抑音符 (˘) で表記した。

## 病 因 論

### 1. 病気の原因

私たちはゴマニ集落で症状に関する用語以外に89の病気の名称を収集した。私たちのインフォーマントはこれら89のすべての病気を知っていた。これらの病気の名称はたいてい*kò-xx*という形をとる。*kò*が指し示す事象は病気に相当し、病気とひどくかけはなれた意味をもつこともない。したがって、*kò-xx*を*xx*の病気と訳して差し支えない。これらの病気の名称の他に症状を表すさまざまな語もあるが、ここでは触れない。

私たちはBakaの病気のさまざまな原因についてインフォーマントから情報を得たが、紙数の都合でここではいくつかの病気にしぼって記述しよう。なお、89の病名とそれぞれの病因は付表に示してある。

- (1) *kò-nà-gubà* (ピーナッツの病気) : これは下痢と血便の症状を呈する病気で、生のピーナッツの過食によって起こるとされる。
- (2) *kò-à-kokòto* (キノポリセンザンコウの病気) : これは腹を病む小児の病気で、両親のどちらかでも、こどもの誕生前、あるいは授乳期間中にキノポリセンザンコウの肉を食べるとこどもがかかるとされている。
- (3) *kò-nà-mbambi* (オオトカゲの病気) : この病気は胃を病むもので、オオトカゲを見るとかかるとされる。
- (4) *kpékésíó* (淋疾) : これは罹患者との性交渉によって、あるいは、罹患者の小便を踏むとかかるとされる。
- (5) *kò-à-likpongbolo* (コウモリの一種の病気) : これは便秘症状を起こす小児の病気の一つで、母親がリボンボロ (コウモリの一環) の糞を踏むとかかるとされている。
- (6) *botelabotela* (足にできるできもの) : これは、本人がエファンジャ (おけらの一種) を

踏み、その毒が足に入ると起きるとされる。

- (7) *ùmbi* :これは衰弱と成長遅滞をともなう小児の病気で、両親が出産後の性交渉禁忌、すなわち、出産後2年ほどは、性交渉が禁止され、儀礼を経て再開可能になるという慣習、を破ったり、母親が婚外性交渉をした後、妊娠するとかかるとされている。
- (8) *mbènjà* (ヘルニア、とくに脱腸) :これは邪術師が路を横切らせておいたつるをまたいで通ったときにかかるとされる。
- (9) *banjo* :これは両脇腹が痛む病気で、特別な原因がなく、自然に起こると考えられている。

この最後の例に示された自然にかかる病気を別にすれば、一部分ではあるけれども、1番から8番までの八つの例に示されたさまざまなBakaの病気の原因は、以下の四つに分けられる。第一は、何か病原食物を食べること、第二は、食べることに以外に何か病原物質に接触すること、第三は、社会的規範やルールに違反すること、第四は、邪術、である。

上述の一番目と二番目の例は病原食物を食べることによって起こる病気の例である。しかし、この二つの例には、少々違いがある。それは、最初の例は食べた人が病気にかかり、二番目は食べた人の子どもが病気にかかることである。Bakaの人々は、病原食物が食物として直接食べられる場合ばかりでなく、間接的に、身体に取り入れられる場合にもそれは病気を起こしうると考える。

三番目から六番目までの例は、病原性をもつ何かとの食べること以外の直接的、間接的接触によって起こる病気の例である。ここで病原性をもつ何かとは、何かの病気や毒をもつ、あるいは有害だと考えられている食物や動物、人間、そしてそれらの排泄物などの物質的実体を意味する。人が病原性物質と接触する方法はたくさんある。例えば、病気をもつ人との性交渉、四番目の例に見られるように罹患者の小便を踏むこと、六番目の例のように毒のある動物を踏むこと、三番目の例にあるように病原性の動物を見ること、そして五番目の例のように病原性の動物の排泄物を踏むこと等である。

七番目の例は、食物禁忌以外の社会的規範を本人あるいは本人の両親が犯したときかかる病気の一つの例である。このような病気を引き起こす違反行為には婚外交渉のような性的なものから盗みまで多様なものがある。

八番目の *mbeja* は、邪術のせいだとよくうわさの対象になる病気の一つである。

以上の8例と違って、最後の九番目の例は特別な原因によらずに自然にしかかからないと考えられている病気である。また、特別な原因によってかかると考えられている病気の多くのは、自然にかかるとも信じられている。

89の病気は原因のタイプによって三つに分けられる(表1)。はじめは、特別な原因によってのみかかると考えられている病気。これには8個の病気がある。2番目は、特別な原因によってかかるし、かつ自然にもかかると考えられている病気。これには55の病気が含まれる。3番

**表 1 原因タイプ別による病気の分類**

病気の分類	病気の数 N=89	%
A	8	9.0
B	55	61.8
C	26	29.2

- A: 特別な原因によってしかかからない病気
- B: 特別な原因によってもかかるし、自然にもかかる病気
- C: 自然にしかかからない病気

**表 2 特別な原因が起こすと信じられている 63 の病気の原因**

原因の種類	起こしうる病気の数*	%
病原食物の摂取	32	50.8
摂食以外の病原物との接触	33	52.4
社会規範の違反	9	14.3
邪術	9	14.3

\*: 病気の中には、異なる種類の原因が重複して病因として考えられている病気もある。

目は、他に原因はなく、自然にかかる病気だと考えられている 26 の病気である。したがって、89 の病気のうち、63 (70.8%) の病気は特別な原因によってかかりうると考えられ、81 (91.0%) の病気は自然にかかると考えられている。Baka の人々はいろいろな病原物質との間接的、直接的接触や、社会的違反行為、邪術など病気を引き起こすおそれのあるものに大きな関心を寄せるが、その一方で、ほとんどすべての病気は自然にかかるものだとも考えているのである。

上述のように、インフォーマントによって語られた特別な原因は四つに分けられる。表 2 には、4 タイプごとの病気の数を示してある。すなわち、特別な病因を有する 63 の病気のうち、32 の病気は病原食物を食べることによって起こり、33 は食べることを除く病原物質との直接的、間接的接触によって起こり、9 は社会規範を犯すことによって起こり、9 は邪術によって起こる。食物禁忌以外の社会的違反行為や邪術によって起こる病気よりも何かの病原物質との接触によってかかるという病気の方がずっと多い。

## 2. 病気の原因としての食物摂取

### 1) 病気を起こす食物

32 の病気を引き起こすとされる食物の種類が表 3 に示されている。動物性の食物がその発生に関わるのは 24 の病気、植物性食物に関わるのは 7 の病気である。他には、土、蜂蜜などが病気の原因になると信じられている。動物性食物が引き起こす 24 の病気のうち、9 は哺乳類が、

表3 病気を引き起こす食物の種類

病気を引き起こす 食物の種類	病気の数	その内の子供の 病気の数
動物	23	10
哺乳類		8
鳥類		1
魚類		5
陸亀		1
かに		1
えび		1
昆虫の幼虫類		1
かたつむり		1
獲物の部位		4
植物	5	
可食性粘土	1	1
蜂蜜と植物	1	
哺乳類と植物	1	
不特定の食物	1	1
合計	32	12

5は魚類が、4は獲物のある身体部位が、2は甲殻類が、引き起こすと考えられており、さらに鳥、爬虫類はそれぞれ1の病気の発病に関係すると考えられている。哺乳類には、三種の森林棲アンテロープ（コシキダイカー：*Cephalophus sylvicultor* Afzelius; クロピタイダイカー：*C. nigrifrons* Gray; ガボンダイカー：*C. leucogaster* Gray）、2属の肉食動物（ジャコウネコ：*Genetta* sp.; ヒョウ：*Panthera pardus* L.）、霊長類1種（ボスマンポト：*Perodicticus potto*）、有鱗類1属（センザンコ：*Manis* spp.）、げっ歯類2種類（野ネズミ、リス）が含まれる。魚類には、淡水魚類4種類（デンキナマズ：*Malapterurus electricus* Gmel.; モルミルス属の魚：*Mormyrus* spp.; 肺魚：*Protopterus* spp.; *kùsà*:未同定）が含まれる。さらに、魚の病気（*kò-nà-si*）と呼ばれる小児の病気の場合、どんな魚でも以前に両親や本人によって食べられていれば、その発病に関わると考えられている。獲物の身体部位としては、骨髓食、脳食、肝臓食、象の足食が発病に関係すると考えられている。七つの病気の発生に関係する植物性食物には、リョウリバナナ、サトウキビ、ピーナッツ、パパイヤ、トウモロコシ、油椰子の実がある。これらが野生ではなくいずれも栽培作物であることは興味深い。

## 2) 病原食物の食規制

食物が病気を引き起こす、あるいは病気をもっているという考えは、当然、Bakaの人々の食行動にも影響を及ぼす。彼らは彼ら自身や彼らのこどもに病気を起こさせるおそれのある食物



は通常避ける。しかし、その回避の程度は食物によって異なる。一般に、Bakaの人々は発病のおそれのある食物の中でも、動物性の食物を避けることにより気を使う。とりわけ、こどもの病気を起こすと考えられている動物の摂食は、こども本人、その両親、妊娠中の母と父にきびしく禁じられる。動物以外の食物、例えば、植物、蜂蜜、土などは食べるのを控えるということとはあまりない。それは一つには、最初の例に見られるようにこれらが引き起こす病気は、それらをただ単に食べて起こるのではなく、過食をすることによって起こると考えられているからである。

### 3) 病原食物の作用

Bakaの人々は病原食物の身体への作用をどのように理解しているのでしょうか。私たちが彼らになぜある食物は食べようとししないのか、なぜある食物を食べた人は病気になるのかという質問をするとき、彼らは決まってその食物には病気があるからだとか、それは病気をもっているからだと答える。しかも、彼らはその病原性は摂食者の身体の中にずっと残り続けると考えている。このような病原食物は、普段は無害で、食べることを誰も厭わないが、いったん微生物によって汚染されると毒性を帯び、病気、中毒を起こす病原物として食べられないものになる私たちの食物とはかなり様相を異にする。Bakaの病因論における病原食物もいつも有害だとは限らないし、場合によっては食べられもする。しかし、それらはもともと危険であり、たとえば、はるか以前に食べられたものであってもその病原性は残り続けるのである。しかも、その病原作用は仲介物を経て両親からこどもへと伝えられるのである。親が食べただけで、本人は食べていないのになぜこどもに病気が起こるのかとインフォーマントに聞くと、親の身体に入った病原食物の水が血や精液や母乳と混ざり、こどもの身体に移されるからだと彼らは答えた。

## 3. 食物摂取以外の病原物との接触

### 1) 食物摂取以外の接触によって病気を起こす病原物

食物摂取以外の病原物との接触によって起こる病気は33を数える。これらの病原物には、18の病気の発生に関わる動物、11の病気の発生に関わる病人、その他にそれぞれ一つの病気を起こすとされている人間の小鼻の毛穴にたまる脂肪、植物性食物、人間、ある種の薬などがある。これら病原物のいくつかは、小便、糞、血、通過した跡、食後の食べ滓、採餌中にたてる音などの形で病原性を有する。18の病気を引き起こす動物は、8種類の哺乳類（ヒョウ、2種の森林棲ダイカー：クロビタイダイカー；ガボンダイカー、1種の霊長類：ボスマンポト、1種類の野ネズミ、センザンコウ、1種類のコウモリ、モグラ：未同定）、1種の鳥（サイ鳥：*Anthracoseros coronatus*）、1種類の爬虫類（オオトカゲ）、3種類の昆虫（おけら、蚊、血吸い蠅）、2種類の

いもむし、しらみ、南京虫、なめくじ（小動物はいずれも未同定）を含む。これらの他に説明の要する2種類の動物、*ekalo*と*yoli*がいる。*ekalo*とは白蟻の兵隊アリのことである。これは素行の良くない男を戒めるため呪術使いが*ekalo*を男の性器に住ませ、男が悪行をやろうとすると*ekalo*が大きな牙でかみつき性器に痛みを与えるという病気である。*yoli*とはへびのような身体つきで、虹のような体色をもち、どんな言葉でもしゃべることができる空想（私たちにとっては）の動物である。*yoli*は森に住み、犠牲者がその森を通りかかるとその身体の中に侵入し、住み着いた患部をふるえさせるという病気を起こす。病人もまた病原の一つとして重要である。Bakaの民俗医学には、科学的医学における感染症に相当する語はない。しかし、Bakaの人々は*búbbà*という言葉をもっている。それは一度集落にやってくると、またたくまに集落中に広がるという一群の病気を指し示す。また、いくつかの病気は病人と一緒にいたり（空気感染）、性交渉をすることによって（接触感染）、病気をもつ人からもってない人に伝染りうることも知っている。

2) 食物摂取以外の病原物との接触方法

病原物と接触する方法は間接的にしろ、直接的にしろたくさんある（表4）。直接的接触は、

表4 食物摂取以外の病原物との接触によって起こる33の病気の接触の方途

接触の方途	病原物の種類	起こしうる 病気の数**
本人、または、その親が		
踏む	小便* を	7
	病原動物の糞を	1
	病原動物の血を	1
	食べ滓を	1
	病原動物の通った跡を	1
またぐ	罹患者を	1
見る	病原動物の身体を	6
触る	病原動物の身体を	4
食べる	毒を有する動物を	1
聞く	病原動物が木をかじる音を	1
性交渉をもつ	罹患者と	2
同所に居合わす	罹患者と	6
咬まれる	病原動物に	3
身体の中に侵入される	病原動物に	4
調剤した患部の手首に	薬が	1
病原物質として作用する		

\* : 誰か他人の小便、罹患者の小便、病原動物を食べた人の小便を含む。

\*\* : 一つの病気が複数の異なる種類の接触の方途を持つ場合もある。

病気をもつ人との性交渉や、病原物や毒のある動物を踏んづけたり、毒のある動物に咬まれたり、病原物に触れたり、誤って、あるいは邪術によって毒のある動物を食べたり、有害な動物が身体に侵入してきたりとさまざまである。これらに次のおもしろい例が一つつけ加えられるだろう。狩猟で獲物を得るために、あるいは喧嘩で勝利を得るために腕に薬を適用したが、結局、狩猟や喧嘩をすることなく終わったとき、その薬が腕に痛みを与えることがあるという。病原物が直接身体に触れることなく病気を引き起こすという間接的接触には、病人をまたぐ、病原動物を見る、病人といっしょに居るなどがある。このような間接的方途のほか、親が病原動物を殺したり、見たり、それに触れたり、あるいは糞を踏んづけたりすると、その子どもが病気にかかるという場合もある。食べることによって引き起こされる病気の場合と同様に、親の病原物との何らかの接触によって、その身体の中に侵入してきた病気は、やはり、血や精液、母乳を通して子どもに伝えられると信じられている。

#### 4. 病気の原因としての違反行為

食物規制以外の社会規範や制度に違反することによって起こるとされている病気は九つある。違反行為の中で、七つの病気の発生に関わる性的なそれは、もっとも重要である(表5)。性的違反行為には、婚外交渉、出産後の性交渉禁忌の違反、日中に性交渉にふけること、性交中に咳をすることなどがある。他には二つのタイプの違反行為がある。一つは、*kunda*という陸亀を食べるときは男女が同席してはならぬという食事マナーに違反する行為、もう一つは他の誰か

表5 社会規範の違反によって起こると信じられている9の病気の違反行為

病気を引き起こす違反行為の種類*	起こしうる 病気の数
性的違反行為	7**
婚外交渉	6
出産後の性交渉禁忌の違反	1
日中の性交渉にふける	1
性交渉中の咳	1
食事マナーの違反	1
他人の蜂蜜を盗むこと	1

\* : 食物規制の違反行為は除く。

\*\* : 性的違反行為で起こる病気には、異なる複数の種類の性的違反行為が病因として疑われるものもある。

が *dàndù* という蜂蜜を採るために切り倒した樹木から *dàndù* を盗むことである。Bakaの人々は性に大なる関心を寄せる。たとえば、彼らは性関係のゴシップが大好きである。男たちは強壯薬に本当に目がない。一般的に言えば、Bakaの人々は性行動に関するマナーや習慣に厳しくない方であろう。しかし、病気の原因としての性的違反に対しては彼らは二分法的態度を示す。私たちがインフォーマントに、規範に反する行為、とくに性的なそれで行くとされている *kpékésíó* (淋疾) や前述した *èkàlo*, *mbénjà* (ヘルニア) について質問をするとき、彼らは嘲って答えたものである。彼らの嘲笑には、自業自得だよという意味が込められていたように思う。一方、*ùmbi* (第7例を参照) の場合は、もっと深刻な状況を呈する。まず、*ùmbi* はしばしば子どもを危険な状態に陥れる。第二に、その小さな子どもの両親、とくに母親は非難的になる。それは、母親の婚外交渉のせいで父親のわからない子どもが生まれたと考えられるからである。インフォーマントによれば、二人以上の男の血が赤ん坊の血に混ざると、生まれた子どもは *ùmbi* になるという。子どもの父親が誰であるかは、父系氏族外婚制<sup>(1)</sup> をとる Baka 社会ではきわめて重要な問題なのである。

## 5. 病気の原因としての邪術

邪術によって起こされる病気として九つの病気がインフォーマントたちによって挙げられた。誰かがこれらの病気の一つに罹ると、たいてい邪術がその原因として疑われる。とりわけ、精神的な病気の *yeka* と決まった症状をもたない *mbéngà* の二つの病気は、その原因に必ず邪術が確信される。槍を意味する *mbéngà* という病気は、邪術師が投げつける槍によって引き起こされる病気だと信じられている。邪術師が犠牲者に投げつけるものは本物の槍でなくてもよく、タバコ、紙屑など何でもよい。犠牲者の症状は、槍 (*mbéngà*) が投げつけられる患部の場所による。槍を投げつける以外に、邪術の方法はいろいろある。直接、毒を投与する、犠牲者の頭をたたき、毒をもつ動物を食事などに混ぜて与えるなどである (表6)。一般に、その原因に邪術が疑われる病気は重篤であったり、深刻な病状であったり、長引いたり、致死的であったりする。上述の九つの病気以外の場合でも、なかなか治らず、深刻な状態のときには、その病気は邪術師が雇らせたのだと考えたがる。Baka 社会にはンガンガと呼ばれる占者がいる。彼らはジャコウネコの毛皮を見たり、火を見ることによって占いをする。しかし、彼らはその能力があるにもかかわらず邪術師探しはめったに頼まれない。私たちはある人が誰かの邪術で死んだといううわさはしばしば聞いたが、邪術師たちが見つけだされ、罰せられたという話はずいぞ聞かなかった。Bakaの人々は、アフリカの農耕社会の人々がするほどには病気の原因としての邪術にあまり大きな関心を払わないようである<sup>5) 6)</sup>。

表6 邪術が起こすと信じられている9の病気の邪術の方法

邪術の方法	起こしうる 病気の数*
邪術師が	
犠牲者の頭を打つ	1
犠牲者に槍を投げつける	1
犠牲者に道に渡したつるを横切らせる	1
犠牲者に毒をもつ動物を食べさせる	1
犠牲者に有毒な血を踏ませる	1
犠牲者に毒を盛る	5

\*：これらの病気の中には、異なる複数の方法が病因として疑われる病気もある。

## 6. 病原物としての動物

89の病気のうち、51の病気が何かの病原物質との接触によって発生すると考えられている。その接触は、直接的接触、間接的接触、食物摂取を含む。表7には51の病気を起こすと考えられている病原物の種類が示してある。動物は35 (68.6%) の、人間は11 (21.6%) の、植物が7 (13.7%) の、その他のものが4 (7.8%) の病気の発生にそれぞれ関わると信じられているように、Bakaの民俗病因論では動物がもっとも主要な病原物質である。しかも、34のことなる動物や獲物の部位が、どんな魚でも原因の可能性のある一つの病気を例外として、異なる34の病気の発生に関わること、すなわち、病原動物はおのおの固有の病気をもっていることに注目すべきである。このような特定病因論は、人間自身が病原となる場合をのぞいて植物や他の物質についても認められる。因果論としてある動物がある特殊な病気に結びつけられるために使われる支配的原理は、類感的思考、あるいは隠喩である。たとえば、*kò-à-likpongbolo* (コウモリの病気) は便秘を起こすこどもの病気であるが、Bakaの人々は次のように説明する。このコウモリはいつも食っちゃ寝で、腹がないので糞を減多にしない動物だ。こんなコウモリの糞を母親が踏んづけると、そのこどもは便秘になるのだと。また、*kò-à-kátu* (ポスマンボトの病気) の場合、誰かがこの動物ポトを食べたり、見たり、さわったりすると、その人は熱発し、ポトがするように手を握りしめ、身を縮め、身体を震わせる病気になると説明する。Bakaの人々はめったに糞をしないコウモリが便秘症状を呈する病気を持ち、身を縮め、身体を震わすポトが病人が背を丸めて震える症状を呈する病気をもっていると考えるのである。

表7 病気の発生に関わる病原物質の種類

病原物質の種類	病原物質の種類の数	引き起こされる病気の数 N=51	病原物質との接触の方途	
			摂食	摂食以外
動物	35	35(68.6%)	25	18
哺乳類	12	12	10	8
獲物の骨髄	1	1	1	
獲物の脳	1	1	1	
獲物の肝臓	1	1	1	
象の足の肉	1	1	1	
鳥類	1	1	1	1
魚類	5*	5	5	
爬虫類	2	2	1	1
その他**	11	11	4	8
植物	6	7(13.7%)	7	
その他***	4	4(7.8%)	3	1
人間	1	11(21.6%)		11

\*:ある病気の場合、病原は何か特定の魚ではなく、食べられる魚は何でも病原となりうる。ここではそれは全体として一つの病原として数えている。

\*\* : Bakaの人々が動物と考えている空想上の動物 ( *yoli* ) および小鼻の毛穴にたまる白い脂肪 ( *mòbòmbò* ) を含む。

\*\*\* : 母親が出産前に食べていて、新生児に病気 ( *ngoti* ) を与える不特定の食物を含む。

## 討 論

### 1. ナチュラリスティックか、パーソナリスティックか

Bakaの民俗病因論はナチュラリスティックか、パーソナリスティックか。Foster<sup>7)</sup>によれば、非西洋医学の病因論には二つの基本的原理がある。すなわち、ナチュラリスティック病因論とパーソナリスティック病因論である。パーソナリスティックな医学システムでは、病気は、妖術師や邪術師などの人間、あるいは亡霊や先祖、悪霊などの非人間的な存在、さらには神や他の強大な力をもつ超自然的な存在などのエージェントの強い意志にもとづく積極的な干渉によるものだと説明される。一方、ナチュラリスティックなシステムは非人格的な用語で説明する。すなわち、疾病は怒れる存在の策謀からではなく、むしろ、冷氣、熱、風、湿気、とりわけ、身体を構成する基本要素のバランスの乱れのような自然の力や状態から発生するのだと。Bakaの民俗病因論では、パーソナリスティックな病因論は限られた病気に見られるだけである。Baka文化も呪術師や邪術師、さらには、死霊、森の精霊、神などのいろいろな超自然的な存在を有す

るが、犠牲者に悪意のある干渉をし、病気に罹らせることができるエージェントは邪術師以外にない。そして、普段から邪術が原因として言及される病氣は89の病氣のうち、わずか9である。その一方、Bakaの人々は多くの病氣は何かの病原物との接触によって引き起こされるのだと考えている。病原物には動物性食物、毒のある動物、食物以外で毒をもたない動物、空想上の動物、作物、病人、そしてこれらの排泄物などがある。これらのほとんどすべては超自然的存在でも悪意のある存在でもなく、ありきたりの自然物である。特殊な能力をもつ空想上の動物(yoli)でさえ、森に住む動物の一種と考えられ、靈的生き物ではないのである。Bakaの医学体系には、他の多くの非西洋医学をナチュラルスティックな体系として特徴づける考え方、すなわち身体の基本要素のバランスに関する理論は見あたらない。しかし、多くの病氣が、病原性を有するが、自然の事物であるものとの接触によって起こるのだという考え方は、Bakaの民俗病因論がパーソナリスティックというよりナチュラルスティックなそれであることを示している。病氣が病原物質との接触によって起こりうるという考え方は、科学的医学における感染概念とそう隔たつてはいない。ただ、Bakaの民俗医学は、病氣が病む人からまだ罹っていない人にどのように伝染するかについては説明しない。一方、科学的医学は病原物としての微生物の直接的、間接的伝染によってそれを説明する。Bakaの民俗病因論には微生物の概念はない。私たちのインフォーマントによれば、間接的にしろ、直接的にしろ病原物質との接触が病氣を引き起こす理由は、その病原物質が微生物によって汚染されているのではなく、それ自身が病氣をもっているからだという。Gardner<sup>8)</sup>は、南インドの狩猟採集民パーリアンの民族医学に関する論文の中で、人体に侵入し、病氣を引き起こすたくさんの微小有機体について記載している。Bakaの病因論にはこのような微小有機体はごく少数の例外、すなわち、咬みついて足に出きものをつくるおけら、菌茎に穴をうがって虫歯をつくるトウモロコシの穂に巣くう白い芋虫、そして前述したyoliなどを除いて見られない。要するに、病氣そのものが間接的、あるいは直接的ルートを経て第一の宿主から第二の宿主へ微生物のように移動すると考えるのである。言い換えれば、Bakaの民俗病因論は病氣自身を科学的医学における微生物のように何か実体的なものとして認識するのである。

## 2. なぜ動物が主要な病原物なのか

イツリの森の狩猟採集民ムブティの食物規制に関する詳しい報告の中で、Ichikawaはムブティによって何らかの形で避けられる食物の90パーセント以上が動物であることを示した。そして、それはこれらの動物が動物界において異常なもの、あるいは異端のようなものであり、それゆえ、それらは尋常の人間にとっては異常な状態である病氣を引き起こす超自然的な力を備えているとムブティたちが考えるからだとし唆している<sup>9)</sup>。

口蔵もまた、マレイ半島の狩猟採集民セマツプリは、悪臭をもったり、身体を震わせたりするようなきわだった特徴を有する動物は病気を人々にもたらすという理由から、それらを食べるのを避けると報告している<sup>10)</sup>。両方とも動物に関わる病気が、病気全体のどれほどを占めるかは示していないが、回避される食物のほとんどが動物であるという事実は、これらの社会においても動物は病気の発生に関わる重要な原因要素であることを示唆する。前述したように、Baka社会においても34種類の動物と食べられるすべての魚が89のうち35の病気の発生に関わっている。なぜ、これらの狩猟採集社会はとりわけ動物が多く病気を引き起こすと考えるのであろうか。Ichikawaは、ムブティが病気を起こす動物は動物界の異常者、あるいは異端者と認識し、そして、この異常性や異端性を人間の病気の異常な状態に連想させるのだと考えている。私たちがこれに基本的には同意するが、少々変更しようと思う。病気は病人にさまざまな症状をもたらし、彼らを日常生活では経験できない異常な状態の中に置く。Bakaの人々が、自分の心身に起きた見慣れぬ異常を”異常な”動物との接触が引き起こしたのだと考えるのはもっともなことである。しかし、私たちのインフォーマントがすべての動物は何らかの病気をもっていると行ったように、私たちは動物界の中でとくに変わった特徴をもつ動物のみならず、普通の動物もまた人間に病気を起こしうる病原でありうると考える。それは、どんな動物であれ、その形態や体色、鳴き声や行動は人間とは大いに異なるからである。森の動物は多様な心身の異常状態、すなわち、どんな病気をも連想させるに十分なほど変わっているし、多様である。

ところで、これらの狩猟採集民は病気の原因をなぜ動物界に見出したがるのか。それは彼らが森の動物に精通しているからであろう。病気は普段は経験できないさまざまな症状を病人にもたらし、ときには彼らを死にも導く。病気に罹ることも決してまれではない。このような病気がなぜ起きるのか、何がそれを起こすのかを知らないままでは、私たちは安心して生きることは出来ないだろう。私たち人間は世界のすべてを説明し、知りたがる。森の動物は、病気を説明し、その原因を知りたいと願うBakaの人々にとってかっこうの材料を準備しているように思える。彼らは、おとなから子どもにいたるまで森の動物についてよく知っている。男たちは狩りをし、女たちは漁をする。動物の行動は日常の話題の中心となる。彼らは類感的思考によって病気がもたらす身体や心の異常な状態と、森の動物のさまざまな形や色、鳴き声や行動を結びつける。こうして、病気の原因を動物界に見出す。原因がわかれば、対策も容易になる。彼らの病気が説明可能であること、その原因が可視的であること、その対策が入手可能であることにBakaの人々は得心するのである。伊谷によって書かれた西タンザニアのサバンナ農耕民トングウェの詳細な民族動物誌の中で、病気を引き起こす動物は強烈な超自然的力を備えた五つの動物しか挙げられていない<sup>11)</sup>。トングウェの民俗病因論は病気の原因として動物よりも邪術やいろいろな霊的存在により重きを置いているようにみえる<sup>5)</sup>。Bakaとトングウェ両者の間のこの違いを説明するのは難しいが、Bakaにとっては森の動物の方が他のものよりも病気の原因を説明する材料としてより適切であったことは確かであろう。



### 3. 病気の原因を特定する意味

Bakaの人々は多くの病気が特定の原因を有すると認めているが、一方で、ほとんどすべての病気は自然に起こりうるとも考えている。これは彼らがほとんどの病気は予防不能であると考えていることを意味する。もちろん、Bakaの人々は病気に罹らないように普段から病原食物を食うのは避けるし、社会規範も守る。しかし、何かの病原物質との接触によって起こる病気の場合、もし、(妊娠中の女性、その夫、小児のような病気に罹りやすい人生段階でないとき)はるか以前でも病原食物を彼らが食べていれば、もし、(彼ら自身、あるいは、彼らの夫や父がその獲物を捕ってきたとき)何かの病原動物をちらっとでも見ていれば、もし、(彼らが森や集落を歩き回ったとき)何かの病原動物や病人の小便を踏んでいれば、そして、もし、どんな魚でも食べてさえいれば、彼ら自身、あるいは彼らの小さな子どもは病気を招き得るのである。もし、その人が大人なら、多数の病原物質との接触は避けがたいものとなる。要するに、Bakaの多くの人々には病原物質との接触によって起こる病気のすべてに罹るおそれがある。これがインフォーマントに特定の原因をもつ病気の大部分は自然にも起こりうると言わせた理由の一つであろう。違反行為や邪術の場合を除いて、Bakaの人々が病気の原因を探し求めるときは、いつ、どこで、なぜ、どのようにその病人は病原物質と接触したかという点には関心を向けず、その病原物質は何かだけに焦点を当てる。病原物質が特定されると、つまり、診断がされると、その特効薬もまた森の莫大な植物資源の中から探し出される。ほとんどの病気には特効薬があり、その多くはBakaの人々の間の共通の知識である。それゆえ、彼らの病気を引き起こす病原物質を追究する努力は、それらを取り除くためでも、それらとの接触を断つためでもなく、ひとえにその病気の特効薬を見つけるためであるように思える。

#### 注

(1) 父系社会であるBaka社会は多数の氏族から成る。Brisson and Boursier<sup>12)</sup>によれば、主な氏族として19の名称が挙げられている。Bakaの人々はこれらの氏族のいずれかに属し、どの氏族に属するかは父親の氏族によって決まる。そして、同じ氏族に属するものは互いに婚姻できず、異なる氏族の配偶者を求めねばならない。

## 謝 辞

本研究は文部省科学研究補助金の支援（課題番号：02041034, 06041046）に基づいて行われた。

本研究の一部は第6回国際伝統医薬シンポジウム・富山（1997）において報告された。

現地調査に際しては、コンゴ科学省インディンガレヤシ博士、カメルーン科学技術省ビナム・ビコイ博士の便宜を受けた。また、神戸学院大学、寺嶋秀明教授、京都大学、市川光雄教授からは有益な助言をいただいた。記して、感謝申し上げます。

最後に、無遠慮な訪問者をあたたかく迎えてくれたコンゴ、カメルーンのBakaの友人たちに心より御礼申し上げます。

## 文 献

- 1) Cavalli-Sforza, L. L., 1986. African Pygmies. Academic Press, London
- 2) Greenberg, P. M., 1970. The Language of Africa (3rd ed.). Indiana University, Bloomington.
- 3) 佐藤弘明, 1991. 定住した狩猟採集民バカ・ピグミー. ヒトの自然誌 (田中, 掛谷編). 所収, pp.543-566, 平凡社, 東京
- 4) Sato, H. 1992. Notes on the Distribution and Settlement Pattern of Hunter-Gatherers in Northwestern Congo. African Study Monographs, 13 (4):203-216
- 5) 掛谷 誠, 1977. トングウェ族の呪医の世界. 人類の自然誌 (伊谷, 原子編). 所収, pp.377-439, 雄山閣, 東京
- 6) 吉田 憲司, 1986. 病と薬: チェワ社会の医療体系. アフリカ研究, 29: 29-53
- 7) Foster, G. M., 1976. Disease Etiologies in Non-Western Medical Systems. American Anthropologist, 78 (4): 773-782
- 8) Gardner, P. M., 1996. Illness and Response among South Indian Foragers. Medical Anthropology, 16 (2): 119-139
- 9) Ichikawa, M., 1987. Food Restrictions of the Mbuti Pygmies, Eastern Zaire. African Study Monographs, Supplementary Issue 6: 97-121
- 10) 口蔵 幸雄, 1981. オラン・アスリと動物: マレー半島の狩猟採集民Semaq Beriの食物規制. 季刊人類学, 12 (3):3-71
- 11) 伊谷純一郎, 1977. トングウェ動物誌. 人類の自然誌 (伊谷, 原子編). 所収, pp.441-537, 雄山閣, 東京
- 12) Brisson, R. and Boursier, D., 1979. Petit Dictionaire: Baka-Fran 溝 is. Centre Culturel du College Libermann, Douala

Received on December 9, 1997

Accepted on February 6, 1998

付表 Baka の 89 の病名と病因

病名	病因	概要	1 頁
<i>achamu</i>	罹患者との性交でかかる。自然にかかる。	陰部に白い傷ができる。梅毒？	
<i>bàtàkomba</i>	罹患者の小便を踏むとかかる。自然にかかる。	全身に大きいポタができる。死ぬこともある。イチゴ腫？	
<i>bèle</i>	両親の婚外交渉によって生まれた子供がかかる。自然にかかる。	子供の病気。決った時間に発熱。	
<i>bèmbà</i>	<i>bèmbà</i> (ダイカーの一種) を食べると、かかるおそれあり。自然にかかる。	腹がおかしくなる。背中が <i>bèmbà</i> のように白くなる。	
<i>bibili</i>	<i>uósili</i> (吸血蠅) などの虫に咬まれ、毒が入る。自然にかかる。	全身が掻いて血が出るほどかゆい。2~3日です。蕁麻疹？	
<i>bili</i>	母が <i>bili</i> (野ネズミ) を食うと子供がかかる。虫の患の <i>bili</i> を見るとかかる。自然にもかかる。	肋骨の下部が痛み、呼吸が荒くなる。子供の病気。	
<i>bibà</i>	自然にかかる。	できもの。腫れて、熱をもつ。ふとももに多くできる。	
<i>bóló</i>	罹患者の小便を踏むとかかる。自然にかかる。	片方の腰から足にかけて痛む。歩けない。	
<i>banjo</i>	自然にかかる。	息をすると両脇腹が痛む。	
<i>botelabotela</i>	森の湿地に住む <i>efanja</i> (けらに類似の昆虫) を踏むと、足に毒が入ってかかる。	足の指間、甲にできるできもの。	
<i>ékàlo</i>	<i>ékàlo</i> (白蟻の兵隊蟻) の体内への侵入。兼行が悪いと <i>ékàlo</i> が暴れ、痛む。	性器の病気。排尿できず、痛む。他人に知られたくない病気。	
<i>èsoko</i>	性交中の咳によってかかる。自然にかかる。	発熱。胸の中に傷ができ、咳をすると血が出る。身体がやせる。	
<i>kò-à-fisè</i>	<i>fisè</i> (リスの一種) が食ったリョウリバナナを食うとかかる。自然にかかる。	耳の中が痛む。	
<i>fóotò</i>	<i>sili</i> (虱) が頭の皮膚を食い破ってかかる。自然にかかる。	頭部白癬。子供の病気。	
<i>fòòfè</i>	自然にかかる。	心臓の病気。心臓が <i>fòòfè</i> (クモの巣) が張るように汚れ、発熱、呼吸困難に陥る。	
<i>gòbò</i>	罹患者の身体をまたぐとかかる。自然にかかる。	縛人病。 <i>gòbò</i> という人形のような目のない動物が腹の中で暴れ、痛みを与える。	
<i>kò-à-gbigbi</i>	<i>gbigbi</i> (電気ナマズ) を両親が食うとかかるおそれあり。自然にかかる。	身体が冷え、じっとしたまま動かない。子供の病気。	
<i>gelémbusa</i>	自然にかかる。	発熱。のどの奥に傷ができ、痛い。扁桃腺炎？	
<i>gobà</i>	象などの骨髄を骨を割って食うとかかるおそれあり。自然にかかる。	下肢の骨がカーンカーンと割れるように痛む。	
<i>indáyà</i>	自然にかかる。	頭痛、発熱、最後に肛門に赤い丸い傷ができる。これが村にくると、皆かかる。	
<i>ĩmbi</i>	産後の最初の性交を儀礼をせずに行うとかかる。母親が婚外交渉して妊娠するとかかる。	小児の病気。成長が遅く、動作がにぶい。食欲なく、呼吸も浅く、死ぬこともある。	
<i>jilà</i>	自然にかかる。	頻繁にめまいがし、真っ暗になって倒れる。妊婦に多い。	
<i>jiò</i>	自然にかかる。	頭痛、発熱。また、寒気も意味する。マラリア？	

付表 Baka の 89 の病名と病因

病名	病因	概要	2 頁
kò-à-bòlòba	bòlòba (可食粘土) を食べたり、母親が食っていればかかるおそれあり。自然にかかる。	腹がふくれ、糞がわずかしか出ない。子供の病氣。	
kò-à-kātu	kātu (ポト：原始的サル的一种) を食べたり、触れるとかかる。自然にかかる。	発熱。両手を握りしめ、全身をちぢめて震える。	
kò-à-kúsà	母親がkúsà (魚的一种) を食うとかかる。自然にかかる。	子供の病氣。衰弱し、口からいつもkúsàの身体のような色の黒いよだれをたらす。	
kò-à-kokòlo	母親や本人がkokòlo (キノポリセンザンコー) を見たり、食べるとかかるおそれ。自然にかかる。	子供の病氣。腹の中でkokòloがつめをたてて歩いているような腹痛。嘔吐。呼吸困難。	
kò-à-kpòkòlò	kpòkòlò (甲虫の幼虫) を食べるとかかる。それが木を食う音を聞くとかかる。自然にかかる。	腹痛。発熱。へその辺りが閉ざされ、便が出ない。	
kò-à-mbèmbe	母親がmbèmbe (マイマイ的一种) を食べていると、かかる。罹患者から伝染る。自然にかかる。	発熱。咳があり、喘鳴がする。子供の病氣。	
kò-à-mbòsè	mbòsè (魚的一种) を始終食べていると、かかるおそれあり。自然にかかる。	mbòsèの魚体のような黒い色の下痢便をする。	
kò-à-súà	súà (豹) を食ったり、その死体を見たり、その小便を踏むとかかる。自然にかかる。	全身に発疹ができる。眠らない豹のように、罹患者は悪寒で夜ずっと眠れない。	
kò-à-sin	sin (ジャコウネコ的一种) を食べると、かかる。	全身がかゆくなる。	
kò-à-elándi	悪意をもつ者が食物にelándi (なめくじ) を混入したり、誤って食べるとかかる。自然にかかる。	激しい嘔吐。最後に血を吐き、舌が出て死ぬ。	
kò-nà-bàkò	日中、性交をしすぎるとかかる。	頭痛。とくに日向に出ると痛む。髪の色が抜ける。	
kò-nà-bóngòso	両親が動物の脳を食うと、かかるおそれあり。自然にもかかる。	子供の病氣。白い液が鼻や耳からたれる。中耳炎や蓄膿症？	
kò-nà-gángulu	gángulu (砂糖黍) のかすを踏むとかかる。親が食べると、子供がかかるおそれ。自然にかかる。	発熱し、全身が疲れ、とくに手足の関節部分が激しい。	
kò-nà-ngubà	ngubà (落下生) を常時生食しているとかかる。	下痢と血便。	
kò-nà-káálá	母親がkáálá (カニ) を食べていると、かかるおそれあり。自然にかかる。	子供の病氣。大便があまり出ない。発熱。嘔吐。	
kò-nà-ma	邪術による。自然にかかる。	高熱。身体がふるえ、口が開かない。破傷風？	
kò-nà-mbambi	mbambi (オオトカゲ) を見ると、かかるおそれあり。自然にかかる。	発熱。嘔吐。へその辺りからみぞおちにかけて痛みがmbambiのようにうごめく。	
kò-nà-njèmbè	自然にかかる。	下肢がかゆくなり、あまりのかゆさにかきむしり、ついには足全体に傷が広がる。	
kò-nà-njakpèle	自然にかかる。	小便が赤くなり、目も黄色くなる。全身がだるくなる。黄疸？	
kò-nà-pápái	パイアの過食でかかる。罹患者の小便を踏むとかかる。自然にかかる。	腹が中心から右にかけて固くふくれ、浅く激しい呼吸をする。便が少ない。	
kò-nà-si	両親が何か悪い魚を食っているとかかる。自然にかかる。	小児の病氣。高熱。肋骨下部が痛む。息が浅く、早く、口がぱくぱくする。	
kò-nà-teme	自然にかかる。	心臓の病氣。死病	
kàta	両親がkàta (サイ鳥的一种) を食べたり、この死体に触れたりすると、かかる。自然にかかる。	子供の病氣。呼吸困難がひどく、呼吸の音がクァークァーと鳴くkàtaの鳴き声に似る。	

付表 Baka の 89 の病名と病因

病名	病因	概要	3 頁
<i>káánji</i>	<i>káánji</i> (エビ) の黒い脳を食うとこれにかかる。自然にかかる。	両方のこめかみがカーンカーンと猛烈に痛む。	
<i>kàlu</i>	自然にかかる。	目の上が木で打たれたように痛み、涙がでる。	
<i>kùnda</i>	<i>kùnda</i> (陸亀) は男と女はいっしょに食わない。もし、食うとかかる。自然にかかる。	肛門から人指し指程度のものが出て、出血する。痔疾?	
<i>kpékésíó</i>	罹患者との性交によってかかる。罹患者の小便を踏むとかかる。自然にかかる。	排尿時激痛。白い尿。淋疾?	
<i>kpínyà</i>	森で他人の小便を踏むとかかるおそれあり。自然にかかる。	妊婦の病気。下腹部が閉ざされ、胎児が腹の上部に閉じ込められる。痛みが激しい。	
<i>kpongbo</i>	自然にかかる。	目が白くなり、失明する。白内障?	
<i>likpongbolo</i>	母親がこの <i>likpongbolo</i> (コウモリ的一种) の糞を踏むとその子供がかかる	子供の病気。食って寝るだけの <i>likpongbolo</i> のように糞をしなくなる。	
<i>lingenge</i>	一度村にやってくると皆かかる。自然にかかる。	発熱。下痢。全身に小さな発疹。一度かかると二度とかからない。	
<i>liboko</i>	母親の獲物の肝、脾臓食。邪術。両親の婚外交渉。自然にかかる。	子供の病気。左脳腹や右脳腹が腫れて固くなる。死ぬことある。	
<i>mèngòmedé</i>	一度、村に来ると皆かかる。自然にかかる。	眼病。目が充血する。癢せるし、下痢をすることもある。	
<i>móngà</i>	<i>móngà</i> (雷魚に似た魚) を食べると本人や子供がかかるおそれあり。自然にかかる。	発熱、血便。	
<i>mòbòmbo</i>	<i>mòbòmbo</i> (小鼻の毛穴の脂肪) が奥歯に穴をうがつ。自然にかかる。	歯の病気。虫歯ではないが、とても痛く、歯を抜くしかない。	
<i>mònjumbe</i>	<i>mònjumbe</i> (ダイカー的一种) を食ったり、血を踏むとかかる。自然にかかる。邪術師のせい。	女性の病気。熱発。下痢。血便。死に至る病。	
<i>mòtò</i>	<i>mòtò</i> (モグラ的一种) の通った跡を踏むとかかる。自然にかかる。	腰から下肢にかけていたむ。	
<i>mòdè</i>	<i>mòdè</i> (ダイカー的一种) の身体に触ったり、食べると本人か子供がかかる。自然にかかる。	手足を突っ張り、口につばがあふれ、バタンと倒れる。	
<i>mùsòngò</i>	象の足の肉を食いすぎるとかかる。自然にかかる。	足の裏に出きるかたいできもの。痛いのが腫はしない。	
<i>mbéngà</i>	邪術師の投げる <i>mbéngà</i> (槍) が身体に入っかかる。代用品でも可能。	体内に入った槍が動きまわり、痛む。	
<i>mbènjà</i>	邪術師のせい。性的不品行によってかかる。自然にかかる。	そけい部、下腹部の腫れと痛み。脱腸?	
<i>mbílà</i>	邪術師のせいでかかる。椰子油を食いすぎるとかかる。自然にかかる。	熱発、鎖骨のくぼみが痛む。黄色の小便。目が黄色になる。	
<i>mbòke</i>	自然にかかる。	発熱。頭痛。頭や腕、下肢が熱で震える。	
<i>mbòngò</i>	自然にかかる。	子供に多い病気。高熱、けいれん。唾が多量にでる。	
<i>mbubbili</i>	自然にかかる。	手と足の指先、爪の中のできもの。	
<i>monjo</i>	邪術師のせい。自然にかかる。	発熱、頭痛。頭が前後に貫かれるように痛む。	

付表 Baka の 89 の病名と病因

病名	病因	概要	4 頁
<i>nàmàtàmèlè</i>	自然にかかる。	耳の下が腫れ、発熱。耳下腺炎？	
<i>ndíka-ngòlò</i>	自然にかかる。	ソケイ部のリンパ腺が腫れ、痛みと熱がある。	
<i>ngèbíllí</i>	自然にかかる。	男の子供の病気。睾丸が腹の中に引っ込む。放置すると、 <i>mbénjà</i> になる。	
<i>ngóló</i>	自然にかかる。	鼻がかける。ハンセン氏病？	
<i>ngòko</i>	他人の <i>dándù</i> (はちみつ的一种) をとるとかかる。 <i>dándù</i> の過食による。自然にかかる。	発熱。上下肢の間接の痛み。歩けず、火のそばで震える。	
<i>ngúsò</i>	自然にかかる。	熱はない。できもの。	
<i>ngbomù</i>	邪術師による。自然にかかる。	婦人病。腹の中に <i>ngbomù</i> (ダイカーの一種) が入り、膨らむ。便が出ず、痛む。	
<i>ngolo</i>	両親が <i>ngolo</i> (ナマズの一種) を食べると、子供がかかるおそれあり。自然にかかる。	子供の病気。高熱、息が荒く、浅い。主に、頤が痛む。	
<i>ngombe</i>	狩猟や喧嘩のために施した薬が作用。自然にかかる。	手首の腫れる病気。	
<i>ngota</i>	自然にかかる。	小児の病気。高熱、息が荒く、鼻の穴が膨らんだり、縮んだりする。	
<i>ngoti</i>	自然にかかる。	赤ん坊の病気。いつも泣き、下痢をする。胎毒？	
<i>nyángali</i>	ハチミツとトーモロコシを食べるとかかるおそれあり。自然にかかる。	歯に穴があく。痛む。虫歯？	
<i>sàka-kòto</i>	自然にかかる。	脳にできるできもの。腫れをもつ。	
<i>songo</i>	自然にかかる。	胸から背に針が貫くように痛む。発熱。	
<i>táábù</i>	自然にかかる。	腹がふくれ、白い便。朝、発熱、屋にはおさまる。	
<i>tongaliso</i>	自然にかかる。	腫れのできもの。ものもらい？	
<i>tulanga</i>	罹患者といるとかかる。自然にかかる。	咳。熱はない。	
<i>wukà</i>	自然にかかる。	乳飲み子をもつ母親の病気。乳房が腫れ、痛い。	
<i>yeka</i>	邪術師のせい。	どこでも寝て、裸でも平気。人の言葉を聞かない。	
<i>yoli</i>	<i>yoli</i> (紅色の身体をし、どんな言語も話せる蛇) の体内への侵入。自然にかかる。	身体がピリピリふるえる。	